

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 6 区分
 【発行日】平成28年1月21日(2016.1.21)

【公開番号】特開2014-108794(P2014-108794A)
 【公開日】平成26年6月12日(2014.6.12)
 【年通号数】公開・登録公報2014-031
 【出願番号】特願2012-262837(P2012-262837)
 【国際特許分類】

B 6 5 D 43/16 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 43/16 A

【手続補正書】

【提出日】平成27年11月26日(2015.11.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

底壁部と周壁部とを含み上面開口面となった箱状の容器本体と、ヒンジ部を介して前記容器本体の周壁部の上端部に回転可能に連結され、前記開口面を開閉可能に覆う板状蓋体とからなるヒンジ付き封入容器であって、

前記ヒンジ部は、前記容器本体の周壁部の上端部から外側に張り出して設けられた本体側連結部の一对の本体側回転係合部に、前記板状蓋体から外側に張り出して設けられた蓋体側連結部の一对の蓋側回転係合部を、回転可能に各々ヒンジ連結することによって形成されており、

且つ前記板状蓋体には、前記板状蓋体の上面板と連続させた状態で外側に張り出す底状張出し部が、前記ヒンジ部の少なくとも前記本体側回転係合部と前記蓋側回転係合部よる一对の回転連結部の上方を覆って設けられているヒンジ付き封入容器。

【請求項 2】

前記容器本体の周壁部の上端部内周面に周方向に環状に連続して設けられた本体側環状装着部の内側に、閉塞時に、前記板状蓋体の上面板の下面から下方に突出して環状に連続して設けられた蓋体側環状装着部を装着させている請求項 1 記載のヒンジ付き封入容器。

【請求項 3】

前記底状張出し部は、先端縁部の両側の端部が、前記一对の蓋側回転係合部よりも側方部分に設けられた斜め縁部を介して、前記上面板の周縁部と接続している請求項 1 又は 2 記載のヒンジ付き封入容器。

【請求項 4】

前記底状張出し部は、少なくとも前記一对の蓋側回転係合部の間の部分を外側から覆うようにして先端縁部から下方に折れ曲がって延設する先端カバー壁を備えている請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項記載のヒンジ付き封入容器。

【請求項 5】

前記容器本体の周壁部の上端部から外側に張り出して設けられた前記本体側連結部には、前記一对の本体側回転係合部から両側の端部に向けて張出し高さを徐々に減少させた、張出しスロープ部が設けられている請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項記載のヒンジ付き封入容器。

【請求項 6】

前記板状蓋体の前記上面板の周縁部分には、下方に延設する舌状係着壁が設けられており、該舌状係着壁の中央部の下部内側面には、前記容器本体の上端部の外側に設けられた係着爪突起に係着される係着爪が設けられている請求項１～５のいずれか１項記載のヒンジ付き封入容器。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２５】

すなわち、本実施形態によれば、ヒンジ部１３は、容器本体１１の周壁部１５から張り出して設けられた本体側連結部１９の一对の本体側回転係合部２０に、板状蓋体１２から外側に張り出して設けられた蓋体側連結部２１の一对の蓋側回転係合部２２を、回転可能にヒンジ連結することによって形成されており、且つ板状蓋体１２には、上面を上面板１７の上面と連続させた状態で外側に張り出す庇状張出し部２４が、ヒンジ部１３の本体側回転係合部２０と蓋側回転係合部２２より一对の回転連結部２３の上方を覆って設けられているので、ヒンジ部１３の一对の回転連結部２３が、容器の上面部分に表れないようにして、当該上面部分の全体を実質的に滑らかに連続させることで、当該上面部分に付着した尿の飛沫等の付着物を、ウェットシート等を用いて簡単に拭き取って除去することが可能になると共に、ヒンジ部１３の回転連結部２３の隙間に、埃や汚れが溜まったり、付着物が付着するのを効果的に回避することが可能になる。